

株式会社 日本ビジネスデータプロセッシングセンター

所在地：兵庫県神戸市中央区伊藤町119 大樹生命神戸三宮ビル 3F

設立： 昭和43年2月 資本金：5,000万円

従業員数：3,610人

事業概要：ITソリューション事業、医療関連事業、公共福祉事業、AI・ロボティクス・IoT事業

- 令和元年度に出展した「天下一合説」にて、社内初となる新卒の外国人留学生を採用。
- 新たな対象を採用することで、自社の受入体制づくりの必要性について「気づき」が得られた。
- 社員の定着と教育の重要性を再認識し、新しい部署「人財企画課」を設立。

(き) ① 取組前

事業拡大に伴い更なる人員増と社員の定着が課題

- ✓ 約50の求人広告媒体を駆使して、年間を通じた採用活動を実施。全ての雇用形態を含めると、年1,000名近く採用している。応募者が多いが、面接に進む者、採用に至る者が少なく、採用活動に改善が必要な状況であった。
- ✓ 4つの事業を手がけており、合同企業説明会等で、自社の魅力を端的に求職者に伝えることに難しさを感じていた。
- ✓ 例えば医療事務は未経験でもできる仕事であるものの、専門性が必要となり、一定数は早期離職してしまうなど、事業拡大に伴う採用と定着、社内教育が課題となっていた。

(き) ③ 取組後(効果)

社内の「パッケージ開発部門」でプログラマーとして活躍

- ✓ IT事業はチームで取引先に常駐することが多いが、お客様と接する前にまずは日本語のビジネスコミュニケーションを身につけてもらうため、商品開発を行う社内部門に配属。プログラマーとしてパッケージ開発を担当。社内ですっきりと研修・教育を実施し、成長・活躍につなげている。

「気づき」は外国人の受入体制づくりの必要性

- ✓ 外国人留学生採用の良さと難しさの両面を感じている。外国人材の受入が今後増加することに備え、社内の受入体制づくりが必要であることに気づけた点が良かった。

② 取組内容や仕組み

外からの学びを取り入れ、定着・教育を強化

- ✓ 自社の魅力が対象者にしっかり伝わるよう、採用セミナーで学んだ内容を取り入れ、新卒・中途、女性といった属性によって伝え方を変えるなど工夫を重ねた。
- ✓ 外部セミナーからの学びやワークショップで他社との交流から得た気づきを採用チームで共有し、採用活動の改善につなげた。直近では年1,000名以上の採用に成功。
- ✓ 単に社員数を増やすだけでなく社員の定着・教育の重要性を再認識し、専任で教育を行う「人財企画課」を設立。

社内で初めて新卒の外国人留学生を採用

- ✓ 令和元年度に出展した「天下一合説」にて、IT分野に関心が高い新卒の外国人留学生に会社説明を実施。社内に外国人材はいたものの、新卒の外国人留学生の採用は初めて。「今までにない対象の採用に挑戦することも人事担当者の役目だ」と感じて、採用を行った。

社内の様子

- ✓ 選考から入社に至るまで、人事が日本人より丁寧にコミュニケーションととり、住宅の手配なども含むサポートをしっかりと実施。

